



2018-2019年度 樋口 雅之 会長

週報 No.2110
発行 2019年 4月18日

会長 樋口 雅之
幹事 宇多村海児
副会長 須田 悦正
副幹事 斎藤 修弘
編集責任者・公共イメージ向上委員会
委員長 齋藤 哲雄

ビジター・ゲスト
上尾市役所
危機管理防災課 中村進様

行事予定
4月25日 卓話 ごんろボンベ、新
型バッテリー、ミネラル水
事業などで業績伸長へ
小林裕一郎会員
5月2日 休会
5月9日 卓話
上尾市教育委員会
「コミュニティスクール
について。上尾市の
英語教育について」
5月16日 次年度計画
クラブフォーラム④
5月23日 卓話 地区青少年
奉仕部門
5月30日 休会

皆さまこんにちは。本年度第38回の例会にお越しいただきまして、誠にありがとうございます。今日は、上尾市 危機管理防災課 中村進様、ようこそいらっしゃいました。後ほど、卓話を頂戴いたします。

まずは、先週4月3日(水)第5グループ卓話コンペには当クラブより3組11名のご参加をいただきました。当日は晴れてはいたが非常に風の強い一日で、アゲンストとフォローとでクラブも4番手くらい違うような状況で、どの選手もスコアメイクに苦しまれたようでした。当クラブでは細野宏道「プロ」が第5位でバスケと2ストローク差という僅差でした。私は天候や風には全く左右されず、安定のいつもと同じくらいのスコアでした。ご参加の皆様、大変お疲れ様でした。

翌日4月4日(木)の例会は上尾駅東口駅前にて献血活動を実施いたしました。この日はお天気に恵まれ、12:30から16:30の4時間で、受付人数が32名、献血人数が28名という結果でした。最初のほうは献血希望者が一気にお越しになり、待ち時間が40分以上という場面も見られました。事前打ち合わせ・設営とご尽力いただきました野瀬社会奉仕委員長、そして当番としてご協力いただいた会員の皆さま、誠にありがとうございました。

そして4月7日(日)は、上尾市スポーツ少年団・種目別交流大会の総開会式ということで、朝から上尾市民球場に行っていました。野球・サッカー・ソフトボール・バレーボール・ミニバスケットボール・ドッチボール・空手など、全42チームが参加し、盛大な開会式が行われました。当クラブからは島村後援会会長、セレニーの芳賀「社長」、そして宇多村幹事はスポ少の設営側でなんと来賓駐車場の整理をされていました。皆さま、早朝より大変おつかれさまでした。

4月1日より新社会人生活をスタートされた米山記念奨学生の鄭維嘉さんですが、社会人スタートから1週間経った近況報告がきました。毎日やるが多くなかなか慣れてなくて大変です。一昨日、配属面談があり、昨日からは宿泊研修に出かけているということです。新しい



環境に早く慣れて、活躍していただきたいと思えます。とのことでした。

さて、今日は4月11日ですが、今から8年と1カ月前の、2011年(平成23年)3月11日(金)14時46分、仙台市の東方約70kmの三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の大地震が起こりました。皆さまも記憶に残っていることと思いますが、東北地方を中心に東日本の広範囲にわたり2~3分以上、激しい揺れが続きました。地震につづけて大きな津波が起り、15時過ぎから16時ごろにかけて、東日本、特に東北地方の太平洋側の地域が甚大な被害を受けました。津波の高さは9m以上といわれ、建物の5階まで浸水した地域もありました。亡くなられた方は1万5897人。そのほとんどが津波によるものです。現在も2533人の方が行方不明で、捜索が続けられています。震災によって避難した人は最大で約47万人。現在も5万1778人の方が仮設住宅などで暮らしています。東日本大震災は、地震そのものの影響に加えて、津波、火災、停電、そして福島第一原子力発電所の事故など、多岐にわたって甚大な被害をもたらした、大規模複合災害といえるでしょう。

幸い、埼玉県そして上尾のこの辺りは大きな被害はありませんでしたが、交通機関のマヒによる帰宅難民や、通信機器が使えず家族の安否がわからない、コンビニやスーパーマーケットに行っても食べ物や生活物資が入手できない、原発停止による節電のための計画停電、ガソリンスタンドでの給油制限など、皆さまのご記憶にあるかと思いますが、この東日本大震災を機に、ご家族で万一の大災害のときの待ち合わせ場所や連絡方法を話し合ったり、非常用物資を買いそろえたりされた、というご家庭も多いことでしょう。

昨年2018年も、西日本豪雨、大阪北部地震、北海道胆振東部地震、相次ぐ巨大台風による広域被害、記録的猛暑、記録的豪雪など、「今年の漢字」に「災」が選ばれたという年になってしまいました。「天災は忘れた頃にやってくる」とよく言いますが、自然災害を防ぐことは難しいので、万一の大災害の時には、まさに「日頃からの備えが生死を分ける」と言っても過言ではないかもしれません。

今日は、上尾市役所 危機管理防災課の 中村進様より「自宅でできる震災対策、地域防災の重要性、上尾市の災害対策」というテーマで卓話を頂戴いたします。皆さまもご家庭や会社での日頃からの備えに役立てていただければと思います。本日もどうぞよろしくお願いたします。

幹事報告

宇多村 海児幹事

◇4月のロータリーレートは1ドル=110円です。

◇上尾市教育委員会から「平成31年度上尾市中学生社会体験チャレンジ推進委員の推薦について」という案内が届いています。詳細は幹事までお問い合わせください。

◇2019年規程審議会報告会が5月9日(木)18:30~さいたま市民会館うらわ大ホールで開催されます。希望者は幹事までお申し出ください。

◇献血の実施報告です。受付人数32名、実施28名でした。ご協力いただきありがとうございました。



委員長報告

クラブ管理運営委員会 斎藤 修弘委員長

あす大宮ソニックシティで開催される「地区研修協議会」に、対象となる次年度役員・委員長はご出席をお願いいたします。また、16:30から上尾に戻り懇親会を設営しています。よろしくお願いたします。



ポールハリスフェロー授与

宇多村海児会員にポールハリスフェローが授与されました。おめでとうございます!



環境に早く慣れて、活躍していただきたいと思えます。とのことでした。

さて、今日は4月11日ですが、今から8年と1カ月前の、2011年(平成23年)3月11日(金)14時46分、仙台市の東方約70kmの三陸沖を震源とするマグニチュード9.0、最大震度7の大地震が起こりました。皆さまも記憶に残っていることと思いますが、東北地方を中心に東日本の広範囲にわたり2~3分以上、激しい揺れが続きました。地震につづけて大きな津波が起り、15時過ぎから16時ごろにかけて、東日本、特に東北地方の太平洋側の地域が甚大な被害を受けました。津波の高さは9m以上といわれ、建物の5階まで浸水した地域もありました。亡くなられた方は1万5897人。そのほとんどが津波によるものです。現在も2533人の方が行方不明で、捜索が続けられています。震災によって避難した人は最大で約47万人。現在も5万1778人の方が仮設住宅などで暮らしています。東日本大震災は、地震そのものの影響に加えて、津波、火災、停電、そして福島第一原子力発電所の事故など、多岐にわたって甚大な被害をもたらした、大規模複合災害といえるでしょう。

幸い、埼玉県そして上尾のこの辺りは大きな被害はありませんでしたが、交通機関のマヒによる帰宅難民や、通信機器が使えず家族の安否がわからない、コンビニやスーパーマーケットに行っても食べ物や生活物資が入手できない、原発停止による節電のための計画停電、ガソリンスタンドでの給油制限など、皆さまのご記憶にあるかと思いますが、この東日本大震災を機に、ご家族で万一の大災害のときの待ち合わせ場所や連絡方法を話し合ったり、非常用物資を買いそろえたりされた、というご家庭も多いことでしょう。

昨年2018年も、西日本豪雨、大阪北部地震、北海道胆振東部地震、相次ぐ巨大台風による広域被害、記録的猛暑、記録的豪雪など、「今年の漢字」に「災」が選ばれたという年になってしまいました。「天災は忘れた頃にやってくる」とよく言いますが、自然災害を防ぐことは難しいので、万一の大災害の時には、まさに「日頃からの備えが生死を分ける」と言っても過言ではないかもしれません。

今日は、上尾市役所 危機管理防災課の 中村進様より「自宅でできる震災対策、地域防災の重要性、上尾市の災害対策」というテーマで卓話を頂戴いたします。皆さまもご家庭や会社での日頃からの備えに役立てていただければと思います。本日もどうぞよろしくお願いたします。

例会主題

自宅でできる震災対策、
地域防災の重要性、上尾市の災害対策

上尾市 危機管理防災課 中村 進様

私は危機管理防災課の前は消防本部に長年勤務しておりました。今日は主に地震が起きた際にどのように対処したらいいかお話ししたいと思えます。



つい最近では昨年、北海道胆振地方で大きな地震が起きましたね。さらにその3か月前には大阪府北部地震も起きましたね。

1995年1月に起きた阪神淡路大震災では20秒ほど揺れただけで6434人の方が亡くなりました。さらに4万3千人の負傷者がでて、32万人が被災者となりました。上尾市の人口が22万8千人ですから、どれだけ大きな震災だったかということが言えると思います。4万3千人の負傷者がた際に救助工作車が出勤しました。ちなみに上尾市消防本部には救助工作車は2台しかありません。神戸はもっと台数があつたでしょうが、4万3千人がケガをしていたら、とても対応できません。この時、58カ所で火災も起きていました。1カ所で数十軒が燃えているので、消防車も足りず、消しきれません。当時、消防では他の自治体に応援に行くという組織はできていませんでした。それでも291隊の消防隊が駆け付けました。

瓦礫だらけの街で、被災者は自分のことで精いっぱい周りが見えなくなっているため、救援に駆け付けた消防隊の車はサイレンを鳴らしながらかゆつり進みます。しがみついてきて、社会死している家族の救助依頼をしてきて、なかなか目的地に辿りつけなかったそうです。この年の夏、全国5千隊による緊急消防援助隊という組織が誕生しました。上尾市も組織の中に入っています。

2011年、東日本大震災が起きた際、上尾市の消防も現地に応援に行きました。応援に行くとなると5日間くらい帰ってこれません。地震発生後、すぐに「国から支援要請がくるな」と察し、5日間の食糧、着替え等を用意し、ニュース速報の39分には出勤体制ができました。しかしながら国からの要請があつたのは夜9時でした。羽生PAに集結し、陸前高田を目指しましたが、現地に着いたのは翌日の夕方でした。夕方着くとあたりは真っ暗

なので救助活動はできません。救助活動を始められたのは、地震発生から2日半後でした。それまでの間、現地の方はご近所同士で助けあっていました。援助隊本来の活動は生存者の救命でしたが、現地でまず見たのは、屋根裏や電柱・電線などで亡くなっている人々で、遺体を見つけたら性別・年齢・身長などを記してブルーシートにくるんで道路に安置し、回酒してもらいました。

さて上尾市で、もし大きな地震が発生したらどうなるでしょうか。平成24・25年に埼玉県地震被害想定調査を行っていました。関東平野北西緑断層帯(深谷断層帯と綾瀬川断層帯が組み合わさった断層帯)の30年以内の地震発生確率は0~0.008%と非常に低いです。しかしながら阪神淡路大震災が起きる確率は0.02~8%、熊本地震は0.9%以下で、「まさかここでは地震が起きないだろうな」という場所で地震が起きていますので、全国どこで地震が起きてもおかしくありません。なので用心が必要です。

本日は上尾市災害ハザードマップをお配りしました。上尾駅周辺の避難所は、上尾小学校、中央小学校です。P10に建物倒壊危険度マップがあり、上尾駅付近は危険度が8~12%と低いです。あちらこちらにある住宅密集地域は20%以上になっています。



P14に「揺れやすさマップ」が示してあります。もし直下型地震が起きたら、上尾駅付近は震度6強にも想定されています。P16「液状化危険度マップ」では、上尾市ほぼ全域で危険度は極めて低く、またP26「荒川洪水ハザードマップ」でも危険度は低くなっています。

続いて上尾市の震災対策についてお話しします。もし震度7の地震が発生したら、避難者は人口の約5%=1万1千人といわれています。その方が避難所に来たら、上尾市で1.5日ぶん、また埼玉県が1.5日ぶんの計3日ぶんの食糧を用意しています。水は1.5ℓのペットボトルが1万6千本を備え、その後は貯水槽から搬送するシステムも用意しています。

さて、ここで「自宅でやるべき震災対策」についてお話しします。「やっておいた方がいいですよ」ではなく、「やってください」という震災対策です。まず地震が起き、スマホからアラームが鳴ったら、黙って様子を伺うのではなく、今自分がいる場所が安全かどうか考え、たった50cm

瓦礫だらけの街で、被災者は自分のことで精いっぱい周りが見えなくなっているため、救援に駆け付けた消防隊の車はサイレンを鳴らしながらかゆつり進みます。しがみついてきて、社会死している家族の救助依頼をしてきて、なかなか目的地に辿りつけなかったそうです。この年の夏、全国5千隊による緊急消防援助隊という組織が誕生しました。上尾市も組織の中に入っています。

2011年、東日本大震災が起きた際、上尾市の消防も現地に応援に行きました。応援に行くとなると5日間くらい帰ってこれません。地震発生後、すぐに「国から支援要請がくるな」と察し、5日間の食糧、着替え等を用意し、ニュース速報の39分には出勤体制ができました。しかしながら国からの要請があつたのは夜9時でした。羽生PAに集結し、陸前高田を目指しましたが、現地に着いたのは翌日の夕方でした。夕方着くとあたりは真っ暗

なので救助活動はできません。救助活動を始められたのは、地震発生から2日半後でした。それまでの間、現地の方はご近所同士で助けあっていました。援助隊本来の活動は生存者の救命でしたが、現地でまず見たのは、屋根裏や電柱・電線などで亡くなっている人々で、遺体を見つけたら性別・年齢・身長などを記してブルーシートにくるんで道路に安置し、回酒してもらいました。

さて上尾市で、もし大きな地震が発生したらどうなるでしょうか。平成24・25年に埼玉県地震被害想定調査を行っていました。関東平野北西緑断層帯(深谷断層帯と綾瀬川断層帯が組み合わさった断層帯)の30年以内の地震発生確率は0~0.008%と非常に低いです。しかしながら阪神淡路大震災が起きる確率は0.02~8%、熊本地震は0.9%以下で、「まさかここでは地震が起きないだろうな」という場所で地震が起きていますので、全国どこで地震が起きてもおかしくありません。なので用心が必要です。

本日は上尾市災害ハザードマップをお配りしました。上尾駅周辺の避難所は、上尾小学校、中央小学校です。P10に建物倒壊危険度マップがあり、上尾駅付近は危険度が8~12%と低いです。あちらこちらにある住宅密集地域は20%以上になっています。

P14に「揺れやすさマップ」が示してあります。もし直下型地震が起きたら、上尾駅付近は震度6強にも想定されています。P16「液状化危険度マップ」では、上尾市ほぼ全域で危険度は極めて低く、またP26「荒川洪水ハザードマップ」でも危険度は低くなっています。

続いて上尾市の震災対策についてお話しします。もし震度7の地震が発生したら、避難者は人口の約5%=1万1千人といわれています。その方が避難所に来たら、上尾市で1.5日ぶん、また埼玉県が1.5日ぶんの計3日ぶんの食糧を用意しています。水は1.5ℓのペットボトルが1万6千本を備え、その後は貯水槽から搬送するシステムも用意しています。

さて、ここで「自宅でやるべき震災対策」についてお話しします。「やっておいた方がいいですよ」ではなく、「やってください」という震災対策です。まず地震が起き、スマホからアラームが鳴ったら、黙って様子を伺うのではなく、今自分がいる場所が安全かどうか考え、たった50cm

よう」とあります。1日1人3リットルの水を準備してください。それを3日分です。通常は、食事、トイレ、洗顔、風呂、洗濯など1日1人80~120リットル使っていますので、生きるために最低限必要なのが1日3リットルです。食料は7日間分の備蓄を推奨しています。そして備蓄する際に重要なのは、古い食材から順に食べ、そして買い足す=ローリングストック法です。用意するのは、自分の好きなものにした方がいいですね。そのほか、カセットコンロとボンベがあるといいですね。

最後に、たとえば自分が助かって外に出るとしたら、ガスや電気や水道を止め、そしていちばん大事なのは「近所への声かけ」です。お互いに見守り、助け合う精神をもっていたらいいと思います。本日はこのような機会を設けていただきありがとうございます。



中村様、卓話をご披露いただきありがとうございました!

宇多村幹事 用心に勝るリスクコントロールなし。
卓話、ありがとうございました。
芳賀会員 娘が年長さんになりました。

樋口会長 須田副会長、斎藤修弘副幹事、岡野会員、大塚信郎会員、小林邦彦会員、齋藤重美会員、尾花会員、大木保司会員、細野会員、齋藤博重会員、深澤会員、藤村会員、長沼会員、小田切会員、丹井会員、大木崇寛会員

出席率

出席	会員数	38	出席数	23
欠席	欠席数	15	(%)	60.53
前々回確定修正(%)		84.21	欠席数	6
			(M・U)	11

第2776回 例会 献血活動を行いました 2019.4.4 於：上尾駅東口、丸広前 皆様、ご協力頂きありがとうございました。



例会日 毎週木曜日 12:30~13:30 事務所 〒362-0035 埼玉県上尾市仲町1-8-31 新和エクセルビル303
例会場 東武パレットホール4F(ボリアス) TEL 048-775-7788 / FAX 048-776-9799

